

東北森林管理局における「モデルプロジェクト」への取組み - 森林生態系ネットワーク保全再生モデルプロジェクト -

(改訂案)

1 趣 旨

「国民の参加による管理経営」の一層の推進を図るため、森林や国有林に関心を持つ市民団体や地域住民等との合意形成を図りながら連携して、森林の整備・保全や地球温暖化の防止、生物多様性の保全、自然再生、森林とのふれあい等を実施する「モデルプロジェクト」に森林管理局が取り組むものです。

東北森林管理局では、8つの森林生態系保護地域をはじめとする原生的な森林生態系を維持する多くの保護林や、これらをつなぐ4つの緑の回廊を設定し、広大な森林生態系ネットワークの形成に努めています。

関連する保護林の面積は178千ha、緑の回廊は175千ha、合計353千haであり、これは東北森林管理局の国有林の20%に当たり、これらの保護林を適切に保全し、緑の回廊において自然林の再生を図ることは、東北森林管理局の最重要課題となっています。

保護林の多くは自然公園と重複することから、マナーを守った適切な利用とオーバーユースが課題であり、緑の回廊においては、人工林の間伐を促進し、時間をかけて自然植生の再生を図っていくことが求められています。また、昨今、生物多様性の保全に対する関心が高まっているなか、活動エリアにおける生物多様性の把握とその適切な保全が重要になっています。

これらの諸課題を解決し、実効ある保全・再生活動を行うためには、地域のNPOや関係団体等の意見を聞き、協力を得ることが不可欠となっています。

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターは、7万haの朝日山地森林生態系保護地域とそれに接続する鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊を主な活動エリアとしており、NPOや関係団体等の活動も活発であることから、NPOや関係団体等と協力した森林生態系ネットワークの保全・再生をモデル的に実施し、その成果をもって管内全域に普及させることとします。

2 対象地域

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| (1) 朝日山地森林生態系保護地域 | 7万 ha(関東局分 22千 ha を含む) |
| (2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の一部及びその周辺 | 1万 ha |
| (3) 月山植物群落保護林 | 7千 ha |
| (4) 庄内海岸林・ <u>高館山</u> | 8百 ha |

3 内容

朝日庄内森林環境保全ふれあいセンターを中心に、庄内森林管理署、山形森林管理署、置賜森林管理署と東北森林管理局が協力して、以下の事項を実施します。

(1) 朝日森林生態系保護地域の保全

ア 管理委員会(1)の運営

年1～2回開催

イ 生物多様性の実態と動態の把握

特別モニタリング(2)の引き続き実施、広域の動態把握及び生物種リストの整備

ウ 人工林の天然林化

森林生態系保護地域内の人工林の抜き伐り等による針広混交林化の推進

エ ボランティア巡視

効率的・効果的な巡視の実施

21年度は80名程度委嘱

オ 現況把握

森林生態系保護地域の設定目的上課題のある箇所の把握

- 1： 朝日山地森林生態系保護地域管理計画書に基づき、森林生態系保護地域の管理状況、特別モニタリング調査や随時発生する案件等について協議するための常設の委員会。
- 2： 同じく、森林生態系保護地域の取り扱いに役立てるため、5年間厳正に入林を規制し、森林生態系の推移について行うモニタリング。森林生態系保護地域において有識者の間で議論の分かれる入林問題の解決を目指す。森林植生と溪流魚について実施。

(2) 鳥海朝日・飯豊吾妻緑の回廊の整備

ア モニタリング調査の実施

スキー場跡地の自然植生回復状況調査の実施、野生動物の生息状況の把握

イ 自然再生施業

緑の回廊内の人工林の抜き伐り等による針広混交林化の推進

ウ スキー場跡地等の植生復元

自然再生実施協議会による実施

エ 森林環境教育の実施

自然再生活動と連携した森林環境教育の実施

オ 現況把握

緑の回廊の設定目的上課題のある箇所の把握

(3) 庄内海岸林の保全活動

ア 巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握

ボランティアと連携した巡視の実施による松くい虫被害等の把握
生物多様性を把握するための調査の実施

イ ボランティアによる森林整備への協力

ボランティアによる森林整備を促進するための支援

ウ 森林環境教育の実施

関係団体と連携した森林環境教育の実施

(4) 高館山の保全活動

ア 巡視による保全活動の実施と生物多様性の把握

ボランティアと連携した巡視の実施による虫害等の把握及び上池・下池の鳥類を含む
生物多様性を把握するための調査の実施

イ 森林環境教育の実施

鶴岡市（例えば庄内自然博物館構想（仮称））や関係団体と連携した森林環境教育の実施

(5) 朝日自然塾の展開

朝日自然塾連絡協議会構成団体や西川町子供農山村プロジェクト等と連携した森林環境教育
の実施

(6) その他

ア ボランティアが行う森林整備や森林環境教育への協力

4 地元団体等との連携

(1) ネットワークの強化

モデルプロジェクトのより効率的・効果的な実施を目指して、これまでの連携団体に
加え地元の関連する団体等からモデルプロジェクトへ参画していただく「サポーター
（仮称、以下同じ）」を募るとともに、「サポーター会議」を設立し、関係団体の
ネットワーク化を強化します。

(2) 情報センター化

モデルプロジェクトに係る情報収集・発信の一元化（例えば、関係機関・団体・サ
ポーター等に対するメールマガジンの定期発行やサポーター等から定期的に情報提供
を受ける仕組みなどシステムティックな情報収集・発信体制の構築）を図ります。